

STAGE+を楽しむ(168)(HP 収載)

—ブルックナーの交響曲第4番—

1. 始めに

前報(167)に引き続き、STAGE+のブルックナーの交響曲第4番の演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回はブルックナーの交響曲第4番の演奏を選びました。

ウィーン楽友協会 2024年

収録日: 2024年4月13日

ウィーン楽友協会では2024年の4月に行われたミュンヘン・フィルによる注目のコンサート映像をお届けします。前半は現代のシーンを代表するヴァイオリン・ヴィルトゥオーゾのルノー・カプソンをソリストに、同じフランスのオルガニストで作曲家のティエリー・エスケシュが書いた、推進力とリズムカルな活力に満ちた新作ヴァイオリン協奏曲をオーストリアで初演する模様をお楽しみください。後半にはハーディングにとって十八番というべきブルックナーの人気曲《ロマンティック》が登場いたしますので、こちらもお見逃しなく。

ソリスト:

ルノー・カプソン (ヴァイオリン)

演奏:

ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団

指揮:

ダニエル・ハーディング

曲目:

ティエリー・エスケシュ ヴァイオリン協奏曲第2番《夢の向こう側》

ルノー・カプソン(ヴァイオリン)

アントン・ブルックナー 交響曲第4番変ホ長調《ロマンティック》



3. 試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用しています。

エスケシュのヴァイオリン協奏曲第2番《夢の向こう側》は、現代曲のようで、色彩感あふれる現代的な曲で、カプソンが技巧的に弾き切っています。

ブルックナーの交響曲第4番《ロマンティック》は、ベーム指揮ウィーンフィル盤などでお馴染みであり、ブルックナーの交響曲では美しい曲です。指揮もオーケストラも違いますが、ウィーン楽友協会の収録のせいか、この配信とアナログ盤の音がよく似ており、弦の美しさや中低域の響きなど、配信とは思えないほどです。

ハーディングは淡々とした指揮ながら、恵まれた収録環境のなかで、この曲の魅力をオーケストラから引き出しています。





4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用した結果、ウィーン楽友協会の収録の弦の美しさや中低域の響きなどが、よく再現されています。

以上